

令和8年度鳥取県地域医療介護総合確保基金（医療）に係る提案事業の概要

鳥取県立中央病院

【事業対象となる保健医療圏】

東部医療圏域

【事業の実施主体】

鳥取県立中央病院

【背景ならびに医療ニーズ】

- 当院は東部圏域唯一の心臓病センターをはじめ、一次脳卒中センター、救命救急センターを有し、24時間体制で東部圏域救急患者の最後の砦として、救命救急専門医による3次救急を行っている。
- IVR-CT装置は、X線により体内部をリアルタイムに透視・撮影する血管造影装置と体内部の精密な断層画像が撮影可能なCT装置が一体となった装置である。画像を見ながら体内に細い管（カテーテル）や針を挿入し、切らずに低侵襲で診断・治療を行うことができる。
- 不慮の事故などの外傷あるいは予測不能な病態による出血の医療における止血手段として、放射線カテーテル治療（IVR）は欠かせない存在となっており、当科では、救急集中治療科との連携の下、血管破綻による出血症例に対する血管内治療を積極的に行っている。
- 令和7年度からは、鳥取県東・中部及び兵庫県北部圏域で当該機器を保有し、救命救急受入が可能な施設は中央病院のみとなった。
- IVRは治療効果に比較して治療に伴う侵襲が少ないという特徴があり、IVRの代表的な手技として、肝細胞癌に対する肝動脈塞栓療法、管腔臓器の狭窄閉塞を改善するステント挿入術や、がんによる体腔液貯留に対する経皮的ドレナージ術等があり、鳥取県東部では初となるステントグラフト留置術も行っている。
- 東部圏域の患者救命のため、H24に整備した現在のIVR-CT装置を更新し、3次救急の充実を図りたい。

【要望内容】

- 目的:救命医療の維持と機能充実に向け、救急医療における止血への早期介入が可能となるIVR-CT装置の更新を行う。
- 事業費:IVR-CT装置購入費 287,078千円

【IVR-CT症例実績】

2022年 422件
2023年 501件（前年度比1.19）
2024年 524件（前年度比1.05）

